

◎健康福祉部長兼福祉事務所長（桶屋栄造君） 食育を通しての子育て中の親の再教育支援についての御質問にお答えをいたします。

市民がさまざまな経験を通じて、食に関する知識と食を選択する力を習得し、健全な食生活を実践するためにも、とりわけ子育て中の親に対する食育を推進することが求められているものと考えております。

その具体的な施策につきましては、各種乳幼児健診、7カ月相談、10カ月相談、母子相談等の各母子保健事業におきまして、食事、栄養の指導を行っているところであります。

また、御提案の食育セミナーであります。現在乳幼児の保護者を対象とした乳幼児食事セミナーを年12回実施をすることとしており、この中で正しい生活習慣、食生活についての情報提供や呼びかけを行ってまいりたいと考えております。

また、食育月間にあわせて「早寝、早起き、朝ごはん」運動を広く市民に周知することとし、ポスターの掲示や音声告知などによる就寝放送を実施しているところであります。

次に、子育て中の親への食育支援についてであります。地域活動クラブでは食育研修会を開催し、「早寝、早起き、朝ごはん」の普及、啓発に取り組むほか、市内11の子育てサークルでも栄養士の指導のもと、お弁当づくりやおやつづくりを、年間5回程度開催をいたしております。

また、保育所や幼稚園におきましては、保護者に対する給食便りの発行や、年1回の給食参観や試食会、講演会を実施し、朝食の必要性や規則正しい食事時間など、正しい生活習慣についての情報提供や呼びかけを行っているところであります。

以上でございます。

◎産業部長（森良次君） 食農教育の取り組みについての御質問にお答えいたします。

近年日本の食料自給率は、40%台で推移するなど低迷いたしておりますが、今後世界的な人口増加、あるいは途上国の経済発展に伴い、食生活の変化により穀物需要が増大すると見込まれております。

また、バイオエタノールなど食用以外での穀物需要が増大するという新たな動きのほか、地球温暖化などの影響も懸念され、今後の世界の食料需給が逼迫することが指摘されているところでございます。

これらの食生活を取り巻く環境変化に伴い、食を通じて健全な心身を培い、豊かな人間形成をはぐくむことができるよう取り組むには、食農教育は大変重要であると考えており

ます。

本市の取り組みといたしましては、田んぼの学校推進プロジェクト事業など、市内小学校8校におきまして、田んぼや水路と触れ合うことを通じ、農村の持つ多面的な機能や、地域農産物の栽培により、育てることの楽しさ、厳しさ、そのほかみずからの生産物を食することの喜びなどの体験を通じた食農教育を実施いたしております。

また、昨年度市の農山漁村女性活動推進協議会会員による「かあちゃんの主張大会」といたしまして、市内の高校生、短大生のほか、育児に励む地域活動クラブを対象に、会員がそれぞれの農業に携わる中での意見発表を行い、地域の安全で安心な食材の生産と提供について、食の重要性をPRするなどの取り組みをしているところでございます。

今後ともこうした取り組みが地域のさまざまな分野にも波及するよう、推進してまいりたいと考えております。

以上、お答えいたします。